



理工学部主催・夏休み科学体験教室を開催しました

7月29日(日)、理工学部では夏の恒例イベントとなった夏休み科学体験教室を開催しました。

このイベントは近隣の小・中学生に科学技術の素晴らしさ、楽しさ、夢を伝え、子ども達の科学に対する興味や関心を育てることを目的としています。

当日は理工学部1年生が参加者の指導者となり4~7月までの授業「プロジェクトI」で学んだ内容を、実験やものづくりを通して小・中学生に教えました。

出展39テーマ、展示2テーマの全41テーマを開講し、今年は734名の小・中学生にご参加いただきました。

物理学系

「スマートフォンでミルククラウンを撮影しよう」



参加者が撮影したミルククラウン



機械工学系

「キャット・フライヤーを作ってみよう」



電気電子工学系

「太陽電池で発電しよう」



環境科学系

「葉っぱのお仕事
～劇的にわかる植物の呼吸と光合成～」



建築学系

富士山をつくろう(立体地図)



大学院生(環境システム学専攻)の論文が大気環境学会誌に掲載されました

環境システム学専攻 博士前期課程2年生 吉岡 実里さんの論文が大気環境学会誌(53巻4号)に掲載されました。この研究は2010年に東京湾沿岸部で観測されたOx高濃度のメカニズムについてモデルを用いて考察したもので、昨年度イタリア ポローニャにて開催された国際学会「18th International Conference on Harmonisation within Atmospheric Dispersion Modelling for Regulatory Purposes (HARMO18)」で発表した内容がベースとなっています。



現在は、2016~2018年の夏季に実施したゾンデ観測のデータをもとに、同論文でも使用したシミュレーションモデルの再現性評価と精度向上に向けた研究を進めています。

■研究論文(ノート)

2010年夏季に首都圏で発生したオキシダント高濃度事象のモデル解析

平成30年度環境研究総合推進費に環境科学系 櫻井准教授の新規課題が採択されました

環境省が公募を行う平成30年度環境研究総合推進費に環境科学系の櫻井達也准教授の新規課題が採択されました。

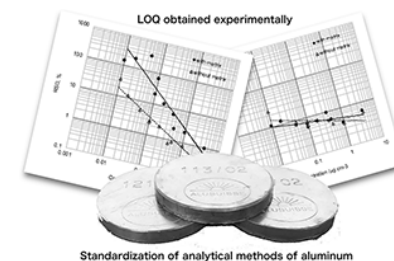
環境研究総合推進費は、環境省が必要とする研究テーマを提示して公募を行い、広く産学官の研究機関の研究者から提案を募り、外部有識者等による審査を経て採択された課題を実施する、環境政策貢献型の競争的資金です。(参考：環境省ホームページ)

■研究課題名：「2020年船舶燃料油硫黄分規制強化による大気質改善効果の評価(GLIMMS-AQ)」

■研究概要：本研究は、2020年の船舶燃料油硫黄分規制強化によるPM2.5汚染の改善効果と船舶寄与濃度を定量的に評価します。研究期間は3ヶ年間とし、二次生成物質を含めた長期・広域的評価と、一次物質による短期・局所的評価を、観測と数値シミュレーションのそれぞれにより行います。

環境科学系 上本常勤教授の論文が日本分析化学会の英文誌に掲載されました

環境科学系 上本道久常勤教授の研究結果が日本分析化学会の英文誌 Analytical Sciences に掲載されました。日本アルミニウム協会に属する企業技術者との共著です。この成果に基づき、今年10月にポルトガルのリスボンで開催されるISO TC79(軽金属に関する技術委員会)において、国際標準規格の新規提案に向けた発表を行います。



■論文題目：Determination of Minor and Trace Metals in Aluminum and Aluminum Alloys by ICP-AES; Evaluation of the Uncertainty and Limit of Quantitation from Interlaboratory Testing (ICP発光分析によるアルミニウム合金中の少量・微量金属元素の定量；共同分析による不確かさと定量下限の見積もり)(写真左) Michihisa UEMOTO, Masanori MAKINO, Yuji OTA, Hiromi SAKAGUCHI, Yukari SHIMIZU, and Kazuhiro SATO